

【学会報告】**ケニアの障がい児者の状況とニーズ」～共に生きる社会を築くために～**公文和子¹⁾

1) シロアムの園

要 旨

持続可能な開発目標（SDGs）の17の目標は世界中のすべての人たちが様々な違いを尊重し合い、共に助け合い、喜び合い、共に生きる社会を作っていくことを目指している。しかし、ケニアの障がい児の人権は守られることなく、社会の一員として可能性を活かして生きていくことができない現状がある。その背景には、適切な教育や医療へのアクセス、インフラや交通機関、差別や偏見、福祉や社会保障の制度などの様々な問題があり、障がい児の社会参加が困難な状況は依然として改善できていない。

「シロアムの園」はケニアの障がい児とその家族、そして地域と共に歩むことを通し、一人ひとりの可能性が活かされ、共に生きる社会を目指している。肢体・知的・重複障がいなどのある子どもたちの障がいの程度やそれにより起こる問題も様々であるが、社会の一員として生きていくことを拒絶されている子どもたちが殆どである。このような子どもたちに対して通園サービスを通じて医療・リハビリ・教育サービスの提供、社会的支援などを実施すると同時に、様々な形で地域の巻き込みを行っている。シロアムの園の様々な取り組みの中から、障がい児の療育や支援のモデルとしての役割、様々な家族や親族の巻き込み、人材育成、地域や行政への発信を通して、障がい児への直接的なサービス提供のみならず、共生社会への変革を目指していく。